

## 自己評価報告書(最終報告)

報告者

生活・健康系コース(家庭)  
／前田 英雄

## ■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

## Ⅰ. 学長の定める重点目標

## Ⅰ-1. 教育大学教員としての授業実践

本学の目的は、豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し、学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには、教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が、学校現場の実践と関連性が保たれていることが必要である。あなたは、教員養成大学の教員として、本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか、これまでの取り組み状況を総括し、具体的に示して欲しい。

## 1. 目標・計画

家庭科という教科は生活に密接に関連している。そのため授業においては机上の学問だけでなく常にその内容を生活に還元していく方策が必要である。

①授業内容と②授業方法:シラバスの内容に準じて資料を配付し、それをパワーポイントを用いて説明し、その内容を簡単な実験・実習を織り交ぜて説明する。

②これまで学部の卒論生や大学院生と共同で進めてきた研究とその成果を附属学校での教育実践フィールド研究(家庭科)で授業実践することによりその有効性を検証する。

## 2. 点検・評価

①授業内容と②授業方法:シラバスの内容に準じて資料を配付し、それをパワーポイントを用いて説明し、その内容を簡単な実験・実習を織り交ぜて担当授業科目の初等家庭、食品学、食物学概論、食生活学演習、初等中等教科教育実践Ⅰ、家庭科教材開発研究で行った。

②これまで学部の卒論生や大学院生と共同で進めてきた研究とその成果を附属学校での教育実践フィールド研究(家庭科)で食品中の鉄の可視化をするために授業計画、実習計画の案の作成や調理実習の15回行った。具体的には大学院生が附属中学校で11月と12月に合計3回(6コマ)授業を行った。その授業の中には前述した食品中の鉄の可視化や鉄を含む食材を用いて調理実習を行った。また、フィールド研究の取りまとめのための授業を2回行い、新年度4月の研究発表会のレジメを作成し、充実した授業になった。その成果を日本家庭科教育学会で発表する予定である。

## Ⅱ. 分野別

## Ⅱ-1. 教育・学生生活支援

## 1. 目標・計画

23年度は、博士課程3年生1名、大学院学生(現職1名)および学部4年生1名を指導する予定である。

1)大学院生には、現場で使用できる「考える家庭科授業」として授業の中で実験を行い、その中で得られる可視化した結果や数値をどのように子どもが理解するかを食品を例として教材開発を進める。

2)学部学生においては、本学の教員採用率向上に貢献できるように教員採用試験に合格できるように指導し、また、卒論研究でも現場で使用できるような教材開発を進める。

3)博士課程の学生は資格認定試験が受けられるように論文作成の指導をする。

## 2. 点検・評価

23年度は、博士課程3年生1名、大学院学生(現職1名)および学部4年生1名を指導している。また、平成23年10月から平成24年9月までタイからの特別聴講生を1名受け入れた。

1) 大学院生には、現場で使用できる「考える家庭科授業」として10月17日(月)に徳島県M中学校で授業実践を行った。授業ではダイコンと人参を混ぜて(紅葉おろし)ダイコンのビタミンCが減少する実験を行い、調理により栄養素が変化することを可視化した。

2) 学部学生においては、本学の教員採用率向上に貢献できるように教員採用試験に合格できるように指導したが、不合格であった。しかし、愛媛県で講師として勤め、来年度の向けて再度、採用試験を受ける。また、卒論では体験的な授業実践にむけてコピー食品の教材開発を行った。その一例としてカラギーナンと塩化カルシウム溶液で人工イクラを作成する教材を試作した。授業実践にまでは到達しなかったが、教育現場で使用できるように指導案とワークシートを作成した。

3) 博士課程3年生の学生は資格認定試験が受けられるように論文作成の指導をした結果、10月初旬に採択通知をもらった(日本栄養食糧学会、59巻(2012)(印刷中)。平成24年2月28日(火)に博士候補資格認定試験を受け、合格した。

## II-2. 研究

### 1. 目標・計画

1) 最近3年間の研究テーマである分岐鎖アミノ酸の研究成果を和文あるいは英文にまとめ、投稿し、論文として発表する。

2) 22年度に行った予防教育科学に関する国内外でのアンケート結果を集計し、論文として形をまとめる。

3) 学外の研究者と共同研究し、自分の研究を活性化する。

## 2. 点検・評価

1) 分岐鎖アミノ酸の研究成果は英文にまとめて投稿したが、査読者から実験の追加を求められ、現在、追加の実験を酵素免疫測定(ELISA)で数ヶ月行ったが、うまく測定ができなかった。一次抗体と二次抗体のマッチングがうまくいかないためと思い、別の高価なキットを使用して、再度、実験中である。

2) 日本、中国、インドネシアで行った予防教育に関する論文を投稿したが、原著論文から資料への変更を求められている。修論をまとめたものであるが、現職の教員だったため現場の仕事が忙しく大幅な論文の訂正ができなかったが、来年度、できるだけ何かの形にして報告をしたいと思っている。

3) 四国大学生生活科学科の教員と分岐鎖アミノ酸やタラ芽の生理活性物質に関する研究を共同で行い、平成23年10月と平成24年3月にそれぞれ学会発表し、論文が採択された。

## II-3. 大学運営

### 1. 目標・計画

1) センター部長、予防教育科学教育研究センター兼務教員、知的財産委員、産総研のプラットフォームの実務者、その他多くの委員会委員として本学の大学運営に貢献する。

2) 連合大学院生活・健康系連合講座(鳴門教育大学)の講座代表として運営に貢献する。

## 2. 点検・評価

1) センター部長として本学の数多くの委員会、予防教育科学教育研究センターの兼務教員、連合講座としての委員会、実地教育に係る対外的な小中校長会への出席等、大学組織や運営に貢献した。

2) 産総研と四国の国立大学の実務者会議の本学委員として会議に出席した。

3) 実地教育担当教員選考委員会では主査として務めた。

4) 本学の生活健康系連合講座の講座代表者として1名の主指導教員資格候補者の教員審査を教員資格審査委員会で説明し、9月7日付けで主指導教員として認定された。また、連合大学院の教育実践論集の投稿論文の査読も行った。

## Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

### 1. 目標・計画

- 1) 附属での教育実習、研究授業、附属の研究会等に参加し、指導助言を行う。
- 2) 徳島県・大学等連携による教職員研修(10年次研修)に協力する。
- 3) 会社等、学外から依頼を受けた場合、研究の指導を行う。

### 2. 点検・評価

自己点検(最終)

- 1) 附属での教育実習には参加したが、研究会は台風で中止になった。
- 2) 10年次研修は受講応募者が3名と少なかったため、中止になった。
- 3) 4件の社会連携を行った。1件目は松茂町教育委員会から依頼があった。大学連携図書館講座の講師として「栄養と健康について」について講演を行った(6/25/11(土))。2件目は洲本高校から依頼のあった「学問研究ワークショップ」の講師として高校2年生を対象に本学教育支援講師・アドバイザー事業の一環として「味覚の不思議」について授業を行った(10/4/11(火))。3件目は四国大学の依頼で「米および米粉利用の現状とこれからの課題について」講演を行った(11/12/11(金))。
- 4件目は、A-STEP(独立行政法人科学技術振興機構)の専門委員として、探索タイプの事前評価および事後評価を2回を行った。

## Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)